

# 石破茂氏をめぐるハニートラップ

## 週刊文春

石破茂氏をめぐるハニートラップ疑惑は、長年にわたり政界の闇を象徴する話題として取り沙汰されてきました。1992年の北朝鮮訪問時に端を発するこの疑惑は、石破氏の政治キャリアに常につきまとう影のようなものです。

週刊文春が2003年に報じた「北朝鮮で女をおねだりした『拉致議連』代議士」という記事は、石破氏の名前こそ伏せられていたものの、その後の報道で本人であることが明らかになりました。

北朝鮮の高官の証言によれば、石破氏は自ら「**女はいないのか**」と要求したとされています。このような行動は、拉致問題に取り組む政治家としての資質に重大な疑問を投げかけるものです。

さらに、『週刊現代』では元東ドイツ秘密警察幹部の証言として、石破氏が「**北朝鮮で美女をあてがわれた**」という衝撃的な内容が報じられました。

これらの疑惑は、石破氏的外交姿勢や政治的判断力に深刻な疑念を抱かせるものです。

特に問題なのは、石破氏がこれらの疑惑に対して明確な説明や反論を行っていない点です。国家の重要な立場にある政治家として、このような疑惑を放置することは許されません。説明責任を果たさない姿勢は、政治家としての資質そのものを問われかねません。

また、石破氏の対中国姿勢にも疑問が残ります。中国との対話を重視し、経済関係の強化を主張する石破氏の姿勢は、時として「**中国寄り**」と批判されています。

この姿勢が、北朝鮮でのハニートラップ疑惑と相まって、石破氏が外国勢力に弱みを握られているのではないかという疑念を生んでいます。

石破氏が第 102 代内閣総理大臣に就任した今、これらの疑惑は単なる個人の問題ではなく、国家の安全保障に関わる重大な懸念事項となっています。

「納得と共感内閣」を標榜する石破内閣が、本当に国民の信頼を得られるのか、大きな疑問が残ります。国民の目は厳しく、火のないところに煙は立たないという格言通り、これらの疑惑の真相究明を求める声は今後さらに高まるでしょう。

石破首相には、これらの疑惑に対する明確な説明と、国民の信頼を取り戻すための具体的な行動が求められています。